

# 十和田市事務事業評価シート

## 【事務事業の概要】

整理番号	②-31	実施計画番号	38	事業開始年度	昭和46年
事務事業名	十和田市寿大学			事業終了年度	
担当課名	スポーツ・生涯学習課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	高齢社会に対応し、高齢者が学習活動を通じて社会能力を高め、心豊かで生きがいのある人生の創造とその学習成果を社会参加活動に活かす学習プログラムを実施する。				
事務事業の目的	高齢者が健康で充実した心豊かな人生を送るために学習の場を提供する。				
実施状況	60歳以上の高齢者を対象に開講。生活や健康など幅広い分野の講座やスポーツなど、4月～2月までに全16回の学習を実施し、延べ受講者数760名であった。				

## 【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	70	65	60
	人件費(千円)	2,520	2,340	2,160
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

## 【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		167	200	231

## 【指標】

活動指標	活動指標名①		実施回数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			回	18	16	15
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		延べ受講者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	目標値 900	700	700
				実績値 792	760	
				達成度(%) 88%	109%	
	成果指標名②		1講座当たりの受講者数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
	延べ受講者数/実施回数		人/回	目標値 50	44	47
			実績値 44	48		
			達成度(%) 88%	108%		

## 十和田市事務事業評価シート

### 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>存在意義の見直しの余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">高齢化に伴い、年々申込者数が減少しているが、高齢者の、生きがいのある人生の創造と社会参加活動の支援のための講座であることから、妥当性はあると考えられる。</td> </tr> </table>	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>	高齢化に伴い、年々申込者数が減少しているが、高齢者の、生きがいのある人生の創造と社会参加活動の支援のための講座であることから、妥当性はあると考えられる。	
	<b>存在意義の見直しの余地</b>	<b>0 / 4</b>								
高齢化に伴い、年々申込者数が減少しているが、高齢者の、生きがいのある人生の創造と社会参加活動の支援のための講座であることから、妥当性はあると考えられる。										
② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2							
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>成果向上の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>1 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">1講座当たりの受講者数は増加傾向にあるが、新規の参加者が少ないため、周知方法の見直しを検討する。</td> </tr> </table>	<b>成果向上の余地</b>	<b>1 / 6</b>	1講座当たりの受講者数は増加傾向にあるが、新規の参加者が少ないため、周知方法の見直しを検討する。	
	<b>成果向上の余地</b>	<b>1 / 6</b>								
	1講座当たりの受講者数は増加傾向にあるが、新規の参加者が少ないため、周知方法の見直しを検討する。									
④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2							
⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1							
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	★	2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>コスト削減の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 6</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">学習時間の工夫や無料で開催できる県・市の出前講座等を利用するなど、経費の削減に努めている。</td> </tr> </table>	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>	学習時間の工夫や無料で開催できる県・市の出前講座等を利用するなど、経費の削減に努めている。	
	<b>コスト削減の余地</b>	<b>0 / 6</b>								
	学習時間の工夫や無料で開催できる県・市の出前講座等を利用するなど、経費の削減に努めている。									
⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2							
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;"><b>受益者負担適正化の余地</b></td> <td style="text-align: center;"><b>0 / 4</b></td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田市に在住し、通学できる高齢者であれば誰でも参加できる。自主クラブ運営費や野外学習参加費等は自己負担している。</td> </tr> </table>	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>	十和田市に在住し、通学できる高齢者であれば誰でも参加できる。自主クラブ運営費や野外学習参加費等は自己負担している。	
	<b>受益者負担適正化の余地</b>	<b>0 / 4</b>								
十和田市に在住し、通学できる高齢者であれば誰でも参加できる。自主クラブ運営費や野外学習参加費等は自己負担している。										
⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2							
<b>現在の適性</b>					<b>19 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>1 / 20</b>			

### 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

### 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

**有効性を改善して継続**

#### 方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

高齢者が健康で充実した心豊かな人生を送るために学習の場を提供する事業であり、多くの方々に参加していただき、かつ満足していただくために、学習内容・周知方法の検討に重点を置き、有効性を改善して継続する。

#### 今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

市広報以外にもポスターを掲示するなど周知方法を見直し、学習内容の充実を図り、新規参加者や受講率の増加を目指す。